

第13回

日本がん分子標的治療学会 トランスレーショナルリサーチ(TR)ワークショップ

エピゲノム研究の 飛躍的進歩がもたらす がん治療へのインパクト

2018年1月23日 火 9:00-17:10

都市センターホテル
コスモスホール I 千代田区平河町2-4-1

参加申込み 事前登録制 【参加費】 会 員：1,000円
非 員：3,000円

※ホームページからお申し込みください。定員に達し次第、締め切らせていただきます。

9:00-9:10 開会挨拶

日本がん分子標的治療学会理事長 長田 裕之

9:10-10:40 Workshop 1

「エピゲノム治療法の新分子標的」

座 長：清宮 啓之

- ① iPS細胞技術によるがんエピゲノムの理解
山田 泰広 (京都大学iPS研究所)
- ② BRD4を標的としたケミカルバイオロジー
田中 実 (田辺三菱製薬株式会社)
- ③ がん分子標的治療標的-キナーゼからクロマチン制御因子へ
河野 隆志 (国立がん研究センター研究所)

10:50-12:20 Workshop 2

「エピゲノムを基盤とした新規治療戦略」

座 長：牛島 俊和

- ① PIポリアミド化合物によるエピゲノム治療薬開発への挑戦
永瀬 浩喜 (千葉県がんセンター研究所)
- ② 乳がんのホルモン療法抵抗性の機序と治療ポテンシャル
中尾 光善 (熊本大学発癌医学研究所)
- ③ 長鎖非翻訳RNAを標的とした新規がん治療法の開発
近藤 豊 (名古屋大学大学院医学系研究科)

12:30-13:30 Luncheon Seminar

座 長：吉田 稔

Dr. Stephen Blakemore (Epizyme, Inc.)
Translation of pre-clinical hypotheses of tumor sensitivity to EZH2 inhibition, in NHL & solid tumors, via clinical development of Tazemetostat

13:40-15:10 Workshop 3

「エピゲノム診断と新技術」

座 長：油谷 浩幸

- ① 1細胞エピゲノム解析技術の開発
大川 恭行 (九州大学生体防衛医学研究所)
- ② エピゲノム編集とその可能性
畑田 出穂 (群馬大学生体調節研究所)
- ③ エピゲノムマーカーの活用による精密医療の実現
牛島 俊和 (国立がん研究センター研究所)

15:10-15:30 Coffee Break

15:30-17:00 Workshop 4

「エピゲノム創薬とトランスレーション」

座 長：秋永 士朗

- ① HDAC阻害薬併用による肺がん分子標的薬耐性克服の試み
矢野 聖二 (金沢大学がん進展制御研究所)
- ② 乳がんに対するHDAC阻害剤の開発とトランスレーション
西村 陽蔵 (協和発酵キリン株式会社)
- ③ ヒストンメチル化酵素EZH1/2二重阻害によるがん幹細胞根絶治療
北林 一生 (国立がん研究センター研究所)

17:00 閉会挨拶

第13回TRワークショップ実行委員長 吉田 稔

【実行委員長】
吉田 稔 (理化学研究所 環境資源科学研究センター
東京大学 大学院農学生命科学研究科)

【実行委員】
油谷 浩幸 (東京大学 先端科学技術研究センター)
伊藤 昭博 (東京薬科大学 生命科学部 分子生命科学科)
牛島 俊和 (国立がん研究センター研究所 エピゲノム解析分野)
近藤 豊 (名古屋大学 大学院医学系研究科 腫瘍生物学)
清宮 啓之 (がん研究会 がん化学療法センター分子生物治療研究部)
秋永 士朗 (アキュルナ株式会社)